

# きんもくせい

平成27年 学校教育だより

September 9 第326号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会  
発行・埼玉県富士見市教育委員会  
電話・049-251-2711 (内線622)

編集目標 人間尊重の教育を求めて



組体操「Present ～高めよう僕たちの力を、伝えよう私たちの力を～」 写真提供／ふじみ野小学校

## 「心」

諏訪小学校 六年

八 鋤 波星未

心

それはだれもがもっている

人間

動物

植物

だれもが心と共に生きている

心はいつもそばにいてくれる

だから心と心が

ケンカする時もある

あっちに行ったり

こっちに来たり

だから人生はいろいろある

それでも私は心と生きていく

感性を磨き、豊かにすること

廊下に展示してある作品を興味津々に鑑賞しながら友達と楽しそうに会話を交わしている生徒の姿。私はこの光景にこそ「美術」という教科のすべてがあるように感じます。表現と鑑賞は一体的であり、鑑賞することその作品の技巧や作者の想いに触れ、次への学習意欲の高まりへと繋がっていくのです。

富士見台中の「美術」の学習目標は「①自分らしい夢を表現する②感覚や表現の違いを認める③創造的な生き方ができる」の三点です。「美術」の学習を通して養われる力は今後の社会で生きていく為に必要なものです。感性を磨き、豊かにすることで自他の存在を大切に、認め合いながら生きていくことができるのです。日頃の学校生活だけでは見えてこない個々の想いが作品を通して伝わってくるのが多々あります。三年間の授業で「想いの伝わる作品」の一つでも多く創り出すことができれば、「心」も大きく成長していくと思います。これらのことを念頭におきながら日々の授業に取り組んでいます。

学校生活の中で出会う美術

学校生活の中で美術に触れる機会は極めて少ないのが現状です。美術の授業は週一時間しかなく、行事等でも活動の成果を発表する機会が少なからずです。

本校ではそういった現状を変えるべく生徒の作品展示に力を入れるとともに、空間演出コンクリートの壁面に大作を描くなどの試みを続けています。富士見台中の校舎内には、作品を仕掛けるのに適した空間が至る所にあります。その空間を上手に生かすことで作

富士見台中学校 教諭 高橋 圭輔

との出会いから表現活動へ

わかる授業 = 中学校美術 =

想いの伝わる作品 充実した



題材設定

生徒達は授業で新しい題材に取り組む時、「今度はどんなことをやるのだろうか。」と楽しみにしています。

来年のこの学年はどんな内容で取り組ませようか、年度末になると考え始めます。日々の授業での活動の様子や、校舎内に展示してある作品を興味津々に鑑賞している生徒の姿を思い浮かべながら考えます。「これって私たちが考えるのかな。」やってみようという意欲が感じられます。

特別支援教育

「なの花二組」がスタート

諏訪小学校特別支援学級 教諭 岡本 光一

富士見市立諏訪小学校では、今年度の四月より、特別支援学級「なの花二組（自閉・情緒学級）」が立ち上がりました。運動会では二年生の児童が大活躍。「ウィーアー」の踊りを元氣いっぱい披露してくれました。高学年の児童も、立派に組体操を決めてくれました。

諏訪小学校の特別支援学級は、校外での学習活動の充実にも努めています。



水谷東小学校 6年 萩原 朱海

大会に向けて練習を始めた頃は、なかなかシュートが決まりませんでした。でも体育で何度も練習するうちに少しずつ入るようになってきて、だんだんミニバスが楽しくなってきました。

ある日、水谷中学校のバスケット部の人たちが来て、

ミニバス大会

いろいろと教えてくれました。シュートの確率がさらに上がったので、毎日練習している中学生はすごいなと思いました。私も見習って大会まで毎日練習しました。

大会当日、みんなのパスがつながってシュートが決まったときは、思わず涙が出そうになりました。練習は大変だったけれど、大会は最高の日になりました。



授業の中で制作活動

週一時間の実技教科にとつて一回の授業はとても貴重なものです。導入では生徒作品をプロジェクトで拡大し、取り上げます。表現方法やテーマ性に特徴のあるものを取り上げ、その作品の良さや工夫点を伝えます。そこから制作活動のヒントをつかめればと考えています。制作の過程で友達や先輩の作品を見られることもあり、生徒には好評です。

鑑賞の授業では、先輩の作品をグループで鑑賞し、感想や意見を言い合う中で、作品の内面性に迫るといふ試みも計画中です。時間を取って制作の様子を見合う活動も、効果的です。表現と鑑賞を一体的に扱うことで、様々な力が身に付いていきます。



終わりに

美術を一言で表すと……、「自由、わたしの内側、自分の鏡、隠れた自分を見つめる時間、新世界、成長の時間、人生……」このような言葉で表す生徒がいます。生徒はこちらが考えている以上のことを感じながら取り組んでいるのです。作品は、生徒たちの心の成

長を映す鏡であり、自分の思いを表現した作品は、「自分そのもの」です。自分と向き合い、自分について考えるクリエイティブな学びは、美術という教科特有のもので、「想いを伝える作品を創り上げる力」、「作品の内面を読み取る鑑賞の力」、この基本を習得していくことで自分と向き合うことができ、心の成長へとつながっていくのです。これらのことを念頭に置き、生徒の心に寄り添いながら日々の授業に取り組んでいきます。

指導・講評 富士見台中学校 校長 児玉亮一

学校がさながら美術館に

本校では、校舎内のいたる所に生徒の作品が展示してあります。作品の前を通る誰もが思わず足を止め、それらの作品に見入ります。

生徒は仲間の作品から、そのものが醸し出すよさや美しさを感じ取ります。そして、自らの思いや感性を通して、仲間の作品に対する見方を深めます。さらに新たな自分の創造活動につながる授業に日々取り組んでいきます。次は、どんな素敵な作品が展示されるのか楽しみです。

試行錯誤

本郷中学校 保護者 山田 道成

「おつちゃん、数学教えてー!」「おじちゃん、物理教えてー!」この春からそれぞれ高一、高二になった甥と姪が立て続けに我が家にやってきた。三十年も前の記憶を辿りつつ、悪戦苦闘しながらも何とか伯父としての威厳を保つ。冷や汗ものである。

我が家には中二を筆頭に三人の息子がいる。時折りビンダグに放り投げてある長男の教科書をペラペラとめくってみると、私の記憶からは消去されている内容がそこかしこにちりばめられてある。私が教えてあげられる自信は、五分五分といったところであろうか。それとも、もはや父はあてにされていないのであろうか。

私は母校の大学で、二十五年間に渡り体育会のコーチとして学生を指導している。長年学生を指導していて感じるのは、昔に比べ最近の学生は総じて真面目であるということだ。しかし失敗を恐れてか、自ら新たな挑戦をすることはあまりない。失敗経験が少な



親も子育てに関しては、トライ&エラーの連続である。

いので、壁にぶつかつた時、それを乗り越える術を持ち合わせていない。俗に言う、打たれ弱いということなのだろうか。

父として息子から頼られることは随分少なくなつたが、それでも機会があれば一緒に何かに取り組んでみたいものである。明確な道筋を示してあげられないかもしれないが、正解を教えることが大切だとは思っていない。自ら考え、判断し、行動をしていく姿を見せることが大切なのだと思う。

「主体的な活動を通して」

南畑小学校

本校では一人一人の生きる力の育成のために、特別活動の充実を力を入れています。その活動の一つに、先日行われた「南畑小夏まつり」があります。保護者や地域の方を招いて、縦割りグループで考えた出し物を出店し、前半・後半に分かれて遊ぶという活動です。店番の経験を通して、任された仕事に責任を持つことの大切さを学び、遊ぶことを通して、他のグルー

プの考えの素晴らしさを知ることができました。子どもたちも、みな生き生きと遊んだり、店番をしたりしているのがとても印象的でした。

今後、計画しているものとして、秋に落ち葉はきボランティア、年度末にお世話になった方々への感謝の気持ちを伝える会などがあります。

このような主体的・体験的活動を通して児童の生きる力の育成につなげ、よりよい学



校づくりを目指していきたいと思えます。

未来へ

鶴瀬小学校 保護者 奈良 絹恵

我が家には、息子が二人います。二つがつかまでは膝の上(九つ(九歳)までは、膝の上に乗せて甘えさせてあげましょう。)

この言葉は、長男が三歳位の時に読んだ本に書いてありました。以来私は、「つかつかまでは膝の上」を心に留めて、生活しています。

長男は九つ。体も大きくなり、「そろそろ膝の上は卒業かしら?」と

思うこともありましたが、まだまだ生まれてから、たったの十年ほど。悲しい気持ちや、悔しい気持ち、日々いろいろな気持ちで揺れていることでしょうか。そんな時に、思い切り抱きしめてあげたいなと思っています。

そして何より、日々息子達を抱きしめることによって、「今日は、疲れたのかな?」とか、「今日は、嫌な事があったって甘えたいのかな?」など



みずほハッピーワールド

みずほ台小学校

本校のたてわり全校活動の一つである「みずほハッピーワールド」は、一学期のたてわり活動の中で、「全校遠足」と並んで児童がとても楽しみにしている活動です。

全校が、赤黄青のチームに分かれ、チーム毎に決めたテーマに沿って、その中のグループで「お店屋さん」として遊びのコーナーを考えます。今年のテーマは「ボール」。



ポーツ「祭り」でした。

当日は前後半に分かれ、全児童がお店屋さんとお客さん役になります。お客さん役は、一・六年生、二・四年生、三・五年生とのペアでお店を回ります。高学年が、低学年の子の要望を聞いたり自分達の行きたいお店を誘ったりして、楽しい時間を工夫しながら交流を深めていきました。この活動を通して、高学年は下の学



年の子の面倒をみることで、思いやりや寛容の心が育ち、低学年は上の学年の様子を真似ながら成長していき、それが無形の伝統として継承されています。

教育課題特集

はぐくむ 生きる力を

～学校・家庭・地域から～

「できた!」という経験の積み重ねを大事に

富士見市立第二保育所 所長 金子 利枝子

この夏、職員有志で地域の行事「いかだラリー」に参加し、思いがけず賞をいただきました。忙しい合間をぬって取り組んだことが認められ、何よりのご褒美となりました。ひとりご褒美となりました。ひとりの職員は「みんなで団結した時、すごい力を発揮しましたね。この団結力でまた頑張ります。」と思いを伝えてきました。嬉しい言葉でした。

「頑張りを認め自信につなげ、またやってみようと思える力につなげていく」それは保育の中でも大事にしていることですが、大人にとっても同様なのだ実感した出来事でした。

切にしています。「できない(苦手がある)自分」に気づく時期だからこそその取り組みです。

保育の中だけでなく、子育てにおいても「できるようなったこと」を、小さな「できた」であっても一緒に喜びあい「声」にして褒めてあげることが大切にしてほしいと思うのです。その積み重ねが自信となり、次も頑張ろうという意欲につながるのだと思っています。





みずほ台小

たてわりで、もくもくそうじ

7月の1週間、たてわりでそうじをしました。みずほ台小は、そうじ中は、しゃべらず黙々と取り組みます。低学年の児童も上級生をお手本にして、そうじが上手になっていくのです。大切にしていきたいよい伝統です。



針ヶ谷小

オーケストラ生演奏で全校合唱!

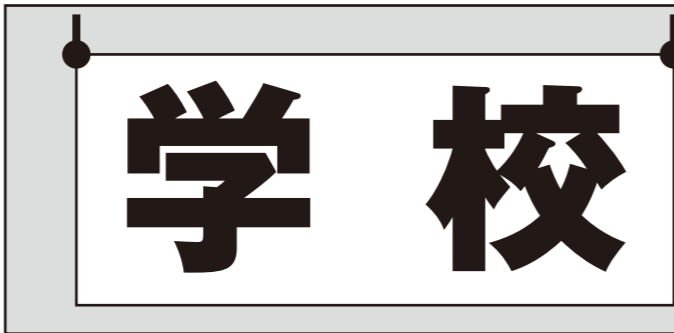
文化庁の文化芸術による子供の育成事業で、関西フィルハーモニー管弦楽団が来校しました。オーケストラの迫力を感じながらの全校合唱に感動しました!



水谷東小

365本の歯ブラシ、東小の歯みがきタイム

給食後、全校で「歯みがきタイム」を実施しています。児童数365本の歯ブラシが、保健室の消毒器で保管されています。ゴシゴシみがいて、ピカピカの健康な歯に!



関沢小

古代から教室へのメッセージ

埼玉県埋蔵文化財調査事業団の方が、たくさんの土器を持って、出前授業に来てくださいました。さまざまな形の土器を通して、古代に生きた人たちの思いを、感じることができました。



西中

夏休みの宿題は学習会ですませよう!

家では集中できない、生活リズムが作れないという声に応じて毎年実施。部活動の前後に参加する生徒もいます。1時間半の長丁場ですが、質問以外の声は聞こえません。職員以外に教育実習生の協力も得ています。



勝瀬中

多くの人を魅了させた「文化部発表会」

土曜参観日に実施された「文化部発表会」。演劇部、吹奏楽部の全力のパフォーマンスに約1200名の来校者は魅了されました。



勝瀬小

富士見の昔にタイムスリップ

水子貝塚公園からゲストティーチャーを招き、富士見市の昔の様子を学ぶとともに縄文・弥生土器に触れ、貴重な体験となりました。



諏訪小

心を一つに、声を揃えて「群読集会」

全校集会で、学年毎に群読の発表をしています。7月は、5年生による「竹取物語」と3年生による「雑草のうた」「大漁」です。声の大きさを揃えて、楽しく読んでいました。

行事が盛りだくさんの二学期が始まりました。一つの行事を成功させるためには、計画を立て、役割分担をして取り組んでいきます。児童会や生徒会が中心になる場面も多くあります。皆で心と力を合わせて準備をし、繰り返し練習をし、時には課題を克服し、思い出に残る行事を作り上げていきます。そのような活動の中から、それぞれの学校の特色が生まれます。先輩から後輩へ伝えられたもの、地域の環境を生かしたり地域の方のお力をお借りしたりしたもの、教職員のアイディアから生まれたものなど、その学校ならではの特色を出し、自慢できる行事を実施していきましょう。是非、地域の学校へ足を運び、子どもたちの様子を見ていただけたらと思います。



東中

南畑地区環境浄化運動に参加する東中生

強い日差しの中、地域の方々と共に汗を流し、多くのゴミを回収し、日頃お世話になっている地域の環境美化に貢献できました。

II 市教育相談室より II 『教育相談 Q & A』

国の「いじめ防止対策推進法」及び、「いじめ防止基本方針」を参考にし、「富士見市いじめ防止基本条例」「富士見市いじめ防止基本方針」を策定し、いじめに対する未然防止、早期発見、対処等への取組を行っています。

また、各学校においても「いじめ防止基本方針」を定め、いじめ防止等のための定期的なアンケートや相談体制の充実、家庭や地域、関係機関との連携を図っております。

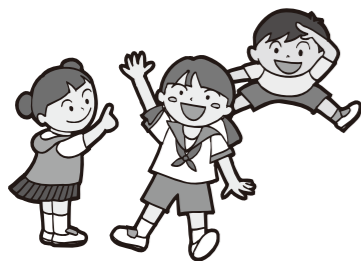
今回、いじめやいじめの疑いを家庭で、早期に発見できるポイントについてご紹介いたします。

- 衣服が破れたり、汚れたり、持ち物を失ったりするが増えているか。
- ケンカをした、ころんだとか言い、アザやケガをしてきたりしていないか。
- 急にお金をつかうことが増えたり、家庭の金品を持ち出したりすることはなにか。
- 急に口数が少なくなっていないか。
- 友だちからの電話で、理由も言わずに家を飛び出すなど、友だちの言いなりになることが増えているか。

- 友だちが急に遊びに来なくなったり、友だちの話をしなくなったりして、ひとりぼっちで家にいることが多くなっているか。
  - 友だちや先生に対する不満を口にするのが、多くなっているか。
  - 「疲れた、具合悪い。」と言って、学校を休みたがったり、遅刻・早退が増えたりしていないか。
  - 急に勉強しなくなったり、無気力になったりすることはないか。
- 以上のような変化が見られた場合には、速やかに学校に連絡してください。また、学校に連絡できない場合には本室にご相談ください。

(問合せ) 富士見市教育相談室

Tel 049-1253-1531



# 教育委員会だより

## おめでとう! 全国・関東大会結果

(敬称略)

### ○平成27年度全国大会・関東大会出場者

《第45回 全日本中学校バレーボール選手権大会》ベスト16

《第50回 関東中学校バレーボール大会》準優勝

#### ☆東中学校 バレーボール部(男子)

- 白石 聖也(3) 柴田 愛斗(3) 橋本 岳人(2)
- 野々村 蒼生(3) 松山 克望(3) 宇佐美陽平(2)
- 金子 颯汰(3) 武井 樹悠(3) 清水 僚汰(2)
- 川島 俊也(3) 篠原 勇介(3) 砂川裕次郎(2)



#### 《第43回 関東中学校卓球大会》

##### ☆東中学校 卓球部(女子)

###### 団体戦 決勝トーナメント2回戦惜敗

- 加治 佑菜(3) 大山 玲奈(3) 小田 菜月(2)
- 小川 莉奈(2) 島貫 紗羽(2) 島貫 結衣(2)
- 鯨津萌々子(1)

###### 個人戦 出場

- 小田 菜月(2) 島貫 紗羽(2) 鯨津萌々子(1)

##### ☆勝瀬中学校 卓球部(男子)

###### 団体戦 第1ステージ出場

- 三国 太陽(3) 大塚 杜(3) 前田 蓮(3)
- 西野 洸貴(3) 柳沢 匡人(3) 清水 達斗(3)
- 石垣 広希(3) 石川 福留(2)

###### 個人戦 出場

- 三国 太陽(3)

#### 《第39回 関東中学校水泳競技大会》

##### ☆西中学校

100m自由形 19位 松森 小夏(1)

200m自由形 12位 松森 小夏(1)

※( )の数字は学年を表しています

#### 《お詫びと訂正》

平成27年5月号(第325号)の「子どもの四季」に、水谷小学校6年生「大村 優太」さんに執筆いただきましたが、お名前を「木村 優太」と誤って記載いたしましたので、ここにお詫びし訂正いたします。



南畑小学校に着任してから三年が過ぎました。豊かな自然と、子どもたちを温かく応援して下さる地域の方々に囲まれ、充実した学校生活を

にみんなで感動しました。木曜日の三十分休みには、みんなでクラスレクをしています。ドッジボールやサッカー、わにわに合戦などとても楽しく活動をしています。

にまとめました。かべ新聞や絵本、紙芝居にして、七月の授業参観で発表をしました。子どもたちの言葉で、南畑地区のすばらしさや発見したことを、保護者の方々に伝える

ことができます。算数の授業では、興味関心や習熟度によりコース分けをして学習をしています。課題に対して自力解決をし、自分の言葉で伝え合える子どもたちの力を育てていきたいと考えています。

南畑小学校教諭 矢部 けいこ

送っています。プールで見つけたヤゴを教室で飼っていると、六月十一日の朝、トンボに成長しました。黄緑色の目、細い足、透き通るような羽……。その美しさに

三年生の総合的な学習の時間のテーマは、「南畑はかせになろう」です。五月に東西南北のコースに分かれて探検したことや、田中梨園さんで見学したことを、グループごと

自然や地域を大切に、地域の方々に、自分たちの力で恩返しができる子どもたちに成長してほしいです。そして、自分の将来の夢に向かって、一步一步努力してほしいと思います。

### 編集日記

サッカー女子ワールドカップカナダ大会で、なでしこジャパンが準優勝になった。二大会連続で決勝に進み、最後まで諦めずに戦った姿に、感動した人も多いことだろう。(原稿を書いているのが七月なので、句の出来事ではないが) チームを支えた一人である澤穂希選手は、夢・目標を持ち続け、夢を叶えるために数々の困難を乗り越えてきた。十五歳で日本代表となり、前回のワールドカップでは主将として活躍した。最後のワールドカップとして臨んだ今回、「悔しい思いがないと言ったらうそになるが、やりきった」と語った。「夢は見れるものではなくて、叶えるもの」「壁にぶつかるからこそ、がんばれる」という言葉にも重みを感じる。また、澤選手の著書の中にある「多くの子どもたちにも、自分の可能性を信じて何かを追いかけてほしい。夢をもってほしい」「未来はあなたの手を変えられる。今日は上手いかななくとも、明日はきつと上手くいく。」の言葉にも心打たれる。

夢や目標をもち、それを達成するために、昨日より今日、今日より明日、と前進する心、困難なことがあっても、くじけず挑戦していく気持ちをもち、実り多い二期にしていきたいと思う。(森田)